

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	ナノ機能組織化技術開発の研究
研究責任者の所属・氏名	ナノマテリアル研究所 青野 正和
【項目】	評価結果
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・本プロジェクトは基礎的で視野の長い研究である。意欲的な目標設定であり、若干のリスクがあるが、思い切ってやってみるのはよい。 ・実際の系においては、複雑な構造を作製するために幾つかの組み立て方法を統合する能力が必要である。 ・特に神経ネットワークのように働く斬新なコンピュータ構造の作製に関しては、挑戦的で意欲的なプロジェクトである。本プロジェクトには実験研究者と理論家の密接な協力が必要であろう。 ・どのようなタイプのネットワークを作り上げるかを理解するためには、コンピュータ科学者／設計者とよい協力関係を持つことが役に立つ。 ・マルチプローブでの解析は本当に世界最高の位置にある。 ・最終目標（原理解明や確立、商品製造、産業化等）に対して、5年のロードマップはどの位置にあるのか。最終的か、途中か。もし途中とすれば、最終的なイメージは何か。 ・目標を達成するための“ロードマップ”が十分に定義されていない。研究自体は質が高い。プロジェクトは意欲的であるが、目標に対する本プロジェクトの寄与を見積もるのは難しい。 ・プロジェクトのストーリー性が不足している。
評価点	B, S-, A+, A+, S, S, A, A+, S, A+
総合評価点※	A+

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点（小数点第二位以下四捨五入）をXとすると、S: X=10, S-: 9≤X<10, A+: 8≤X<9, A: 7≤X<8, A-: 6≤X<7, B+: 5≤X<6, （以下同じ考え方）・・・とする。